記 録

平成22年度森林計画学会夏期セミナー（in 宮崎）実施報告

甲 斐 重 貴^{1,*}

Report on 2010 summer seminar of Japan Society of Forest Planning in Miyazaki Shigetaka Kai

I. はじめに

平成22年度森林計画学会夏期セミナーは、平成22年9月12～14日の日程で宮崎県南部及び北部において開催された。参加者数は、会長以下32名であった。以下、その概要について報告する。

II. 概 要

1. 9月12日（日） セミナー第1日目

22年度の夏期セミナーは、宮崎空港集合からスタートした。13時頃、観光バス（ガイド付き）で空港を出発し、ガイドによる日南海岸の観光スポットの説明を聞きながら、国道220号線を南下し、鶴戸神宮へと向かった。鶴戸神宮に到着直後、驟雨に見舞われた。しかし、幸いすぐにおさまり、参加者一同、駐車場から参詣道を歩いて鶴戸神宮に詣で、海食洞（砂岩が波によって浸食されたもの；高さ9m、奥行き20m）内に作られたユニークな神殿や多様な形状の岩礁から成る海岸及び海岸植生を鑑賞したり、運玉投げに挑戦するなどして、約1時間を過ごした。

続いて、日南海岸をさらに南下し、日南市の飢肥市街（江戸時代の飢肥藩の城下町、飢肥藩の主導で飢肥林業が始まった）を経て、日南市の市有林（オビスギ人工林列状間伐と跡地へのヤマザクラ及びイロハカエデ植栽試験林）に到着した。ここでは、日南市役所の担当職員から説明を受け、本市有林や周囲のオビスギ一斉人工林の林相を見学した。

次に、三ツ岩林木遺伝資源保存林を訪れた。本林分は、明治11年に直挿しによって育成されたもので（平

成22年現在、133年生）、標高330mに位置し、面積は5haで、アカ、トサグロなどオビスギ系の8品種から構成され、個体別にみると最大値は樹高が38m、胸高直径が124cm、幹材積が18m³で、現在も健全に成長しており、オビスギ品種の遺伝資源保存林として、またオビスギ高齢林の指標林として貴重な存在となっている。バスを降りて本林分まで坂道の林道を約1km歩いたが、参加者は健脚揃いで、さすがに森林計画学会会員であった。本セミナー参加者の集合写真をこの保存林内で撮影した（写真）。

ここで約30分過ぎた後、16時半頃出発し、途中、オビスギの美林を見学しながら、県道日南～高岡線を通って宮崎市に入り、宮崎自動車道（高速道路）を経て、17時30分頃、宿泊地の宮崎市に到着した。当夜は、当日の疲れを癒し、翌日以降のセミナーの成功を祈念して、市内のホテルで懇親会が盛大に行われた。

2. 9月13日（月） セミナー第2日目

懇親会を行ったホテル前に集合し、午前9時に観光バスで出発した。会員1名を残したまま出発するというハプニングがあったが、自分の車で参加していたM会員の車に同乗していただくことになり事なきを得た。バスは、まず、宮崎神宮の西方の宮崎市街を見下ろす高台にある平和台公園に向かった。ここでは、各地から寄せられた岩材を用いて1940年に造られた平和の塔や、はにわ公園の埴輪を見学した。次に、東九州自動車道～国道10号線を北上し、口蹄疫で大きな被害を受けた西都市、新富町、高鍋町、川南町、都農町を経て、日向市の「はまぐり基石の里」に到着した。ここで、昼食を摂り、基石の製造工程やカヤ基石盤など

* 連絡・別刷請求先（Corresponding author）E-mail: s.kai@cc.miyazaki-u.ac.jp

1 宮崎大学農学部 Faculty of Agriculture, University of Miyazaki, Gakuen-kibanadai-nishi-1-1, Miyazaki, 889-2192.

表－１ 発表題目及び発表者

歴史的木造建造物に使用されている木材資源の特性	○佐藤樹里・山本博一（東大院新領域）
林縁からの距離で見る森林性鳥類の利用林地	成瀬真理生（信州大院農）
林業の経済性に対する各種因子の影響力を整理する	當山啓介（東大院農）
風倒木処理のための被害情報とその情報源について	○高橋正義（森林総研北海道）、菅野正人・寺田文子（道総研林試）
森林体験活動の活動内容と活動場所との関係	○井上真理子・大石康彦（森林総研多摩）
沖縄の亜熱帯林における林業の現状と今後の展望	高嶋敦史（琉大農）
木材トレーサビリティの材質管理機能の考察	田中万里子（東京農業大学）
植生変化点探索システムの構築	世見淳一・○小田三保・福里和朗（宮崎県林業技術センター）
地域森林経営シミュレーションに対する林業収支予測システムの適用	○中島 徹（東大農）・鹿又秀聡（森林総研）
九州におけるスギ再生林の低コスト化に向けた取り組み	○鹿又秀聡・上村佳奈（森林総研）、齋藤英樹（森林総研九州）

を見学し、日向市中心街を経て、12時30頃、研究発表会場の宮崎県東臼杵郡美郷町西郷区にある宮崎県林業技術センターに到着した。

研究発表会は当センターにおいて13時30分から始まった。発表件数は10件で、前半と後半に分かれ、それぞれ5件ずつ発表が行われた。森林総研の鹿又会員と光田会員が座長を務め、多様なテーマ（表－１）について発表が行われた。それぞれ興味深い発表で、熱心な質疑・議論があった。夜は、センター食堂において懇親会が行われた。会員以外に、林業技術センター所長以下5名のセンター職員の皆さんが参加された。職員のご厚意による地鶏焼きやお世話を頂いた地元のご婦人の皆さん方の手作りの郷土料理などに舌鼓を打ち、宮崎の焼酎を頂きながら、当日の研究発表内容、宮崎及びわが国の森林・林業その他について深夜遅くまで活発な議論が行われた。

3. 9月14日（火） セミナー第3日目

午前9時に諸塚村営バスで林業技術エンターを出発した。まず、諸塚村の「しいたけの館」に向かい、諸塚村企画課の矢房課長から諸塚村における森林管理や林業振興などに関する取り組みの紹介があり、質疑が行われた。続いて、真弓岳方面に向かい、村が取り組んでいるカーボンオフセットに関する説明を受けた。昼は、池の窪グリーンパークと近辺で、ハーブレストランにおける食事（ハーブカレー）と帯状複層林見学を、半数ずつ分かれて交互に行った。最後に、耳川広

域森林組合諸塚木材加工センター（FSC 認証工場）を訪問・見学した。ここでは、地域材の加工や販売状況について担当者から説明を受けた。その後、日向市に向かい、概ね予定どおりの時間（16時）に日向市駅（駅舎に地元産スギ材を使用）に到着し、そこで解散した。

Ⅲ. むすび

初日はやや天気が心配されたが、午後から持ち直し、その後は好天であった。沖縄から北海道まで、また、大ベテランの先生方から若い大学院生まで、研究機関、大学、行政人まで参加者は多様であった。宮崎県の県南部と県北部をセミナーの対象区域としたため、やや強行軍であったが、体調不良の会員は特におられず、無事にセミナーを終えることができ、世話人としての責務はなんとか果たせた。参加された会員の皆様のご協力のおかげです。深く感謝申し上げますとともに、研究発表会や現地見学が今後の研究に役立つことを祈念します。

なお、本セミナーの開催にあたっては、いろいろな機関、多くの皆様からご支援・ご助言を頂いた。日南市市有林の説明の労を頂いた日南市林政課の川添課長、甲斐課長補佐、署内国有林と三ツ岩林木遺伝資源保存林に関する資料を提供して頂いた九州森林管理局宮崎南部森林管理署の関係各位、諸塚村企画課矢房課長・中本主任、研究発表会及び懇親会に際し、大変お

世話になった宮崎県林業技術センターの楠原所長・池田主査，諸塚木材加工センターの松田係長には特にお世話になった。また，本セミナーの開催に対しては，宮崎観光コンベンション協会及び農学生命科学研究支援機構から多大の資金援助を頂いた。さらに，宮崎観

光コンベンション協会の越智部長からは企画に関し非常に有益なご助言を，森林計画学会企画運営委員会の龍原先生（東京大学）には，全般にわたってご指導を頂いた（勤務先・役職などはセミナー当時のもの）。誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

（2011年7月1日受付）

（2011年9月28日受理）

本セミナー参加者の集合写真（木平勇吉会員撮影）